

2026 SPECIAL INTERVIEW × HARENOSUKE TATEKAWA



「それ」は突然やってきた…  
想像もしなかった  
オファーが！

ー現在は笑点メンバーとして活躍されていますが、  
オファーはどのように届いたのですか

私は二ツ目時代からBS日テレ『笑点特大号』の若手大喜利に出演していました。真打に昇進してからも出ていて、実は50歳まで若手大喜利のメンバーでした。ある時、日テレのスタッフさんと話をする機会があり、そろそろ若手大喜利の卒業を告げられるのかなと思っていたら、「来年の春から笑点メンバーに」と真逆のことを言われたんです。本当に驚きました。しかもこのことは、笑点新メンバー発表の放送日まで絶対に内緒にしないといけませんでした。親にも家族にも言えない日々が半年以上続きました。職業は落語家なのに喋れない日々。とても長く感じました。

少し縁を感じることがありまして。笑点は今年60周年です。あ、調布市は昨年70周年でしたね。笑点の初代司会者は、私の大師匠、立川談志です。その立川談志が亡くなったのが、平成23年(2011年)の11月21日になるのですが、私は11月21日が誕生日なんです！大師匠の命日が自分の誕生日なので、縁というか、少し運命を感じます。



今回のインタビューの撮影風景



時々Vサインをして緊張をほぐす  
お茶目な晴の輔さん



ー晴の輔さんには、市制施行70周年の記念映像にも  
出演いただきました

市役所の担当者の方が、私の独演会にわざわざ来てくださり、熱く依頼をしてくださいました。とても嬉しかったです。少し迷いました。もし映像の完成度があまり良くなかった場合、市民の方から叱られるのではないかと、調布に住みづらくなるかも、なんていらぬ想像をしてしまったからです。調布生まれの妻に相談したら「そういうのがやりたくて落語家になったんじゃないの!？」と背中を押され、お引き受けさせていただきました。

市役所や映像制作チームの皆さんと一緒に、案を出し合いながら、何度も打ち合わせを重ね、微調整を繰り返して、撮影に挑みました。チームで作り上げたという達成感がとてもあります。関係者の皆さんには、心から感謝しています。

ー最後に調布市民にメッセージを

僭越ながら、調布市の市制施行70周年記念映像に出演させていただきました。観ていただき、ありがとうございます。映像の制作にあたり、調布市の歴史や良いところを改めて見直す機会になり、本当に住み良い街だなと強く感じました。市民の皆さん、時間がある時に調布の街を歩いてください。実は知らない路地、知らない公園、知らない神社仏閣などが、まだまだたくさんあるはずです！

お待ちしております！

独演会の日程などの情報は  
『立川晴の輔WEBサイト』を  
ご覧ください

市制施行70周年を記念して制作した映像を市のYouTubeで公開中！

落語家の立川晴の輔さんが、軽快な語り口で調布の歴史や魅力を「落語風」に紹介。  
調布の今と昔を比べられる歴史的な映像や、思わずクスッとする「調布あるある」も登場。ぜひご覧ください！



市制施行70周年の  
記念映像はこちらから！



街の様子を見に行く、  
映像の1コマ



撮影風景

